

## 新年のご挨拶 2019年 新春

明けましておめでとうございます

皆様お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、毎日のように各種メディア等で日本語教育という文言を目にし、耳にした1年でした。労働人口減少の対策として政府が外国人材受入の拡大方針を打ち出し、昨年11月には改正入管法が成立、本年4月に施行されることが決定しました。外国人労働者受入に向けて日本語能力の判定、日本語学習プログラムおよび実施機関や人材の確保等、日本語教育に関わる課題に言及した発言や文書に関する報道も増えていますが、日本語教育の目的・内容・方法等に関する理解や認識についての理解が十分でないものも多く、危うさを感じます。外国人材受入拡大という政策による事業等に関連して進められる日本語教育においても、受け入れるのは「労働力」ではなく「人」であるという認識が基本であるべきです。日本語教育の目的は、人生の盛りの一時期を日本で生きる「人」を支えること、また、多様な言語文化背景の人々がつながりあい、共に暮らしていく社会の実現に資することであり、それはまさに「人をつなぎ、社会をつくる」という学会の理念に通じるものです。社会の動向に日本語教育が注目されている今、学会として何をすべきか、何ができるかを模索しつつ、具体的なアクションを起こすことが重要であると思います。会員の皆様にもさまざまなお考えがおりかと思存じます。ぜひご意見等をいただけますようお願いいたします。

本年は、学会の各委員会の委員改選の年にあたります。昨秋よりその準備を進めておりますが、今回、表彰委員会を除く各委員会に公募による委員選出枠を設けました。各委員会活動の企画運営に主体的に関わる意思をお持ちの会員に委員としてご活躍いただくことは、学会の透明性を高め、活動の活性化に繋がるものと考えての試みです。たいへんうれしいことに、公募を行ったほとんどの委員会に応募があり、改めて学会の活動を開いていくことの重要性を確認いたしました。4千人に迫る多様性に富んだ会員に支えられている日本語教育学会が、まず会員にとって開かれた学会であることによって活力を増し、その力をもって学会の諸活動を推進し、使命である社会貢献を果たしていけるよう、挑戦を続けて参ります。本年もどうぞよろしく御支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年が皆様にとって実り多き年になりますようお祈りいたします。

公益社団法人 日本語教育学会  
会長 石井恵理子